

1 社会・治安情勢

治安情勢全般については、良好とは言い難く、当地犯罪発生件数は2008年をピークに2011年まで減少傾向にあったが、以降増加しており、犯罪発生率も依然として高い水準にある。昨年極東管区内で登録された総犯罪数の約4割を沿海地方が占めており、治安環境は劣悪な状況にある。

当地における発生犯罪の傾向としては、窃盗が犯罪件数の約半数を占めており、自動車盗の多発（発生数ロシア全国4位）、未成年者による犯罪の増加（前年比増加率ロシア全国5位）、麻薬関連犯罪の増加（前年比23%増）などが挙げられる。

今般の経済制裁及び原油安に始まる為替変動とインフレが当地においても顕著であり、社会情勢の不安定化及び治安の更なる悪化が懸念され、引き続き注意を要する。

2 一般犯罪・罪種別犯罪の発生傾向等

（1）一般犯罪の傾向

2013年の沿海地方における犯罪登録件数は52,450件（前年比9%増）であり、2012年から増加傾向に転じている。同登録件数は極東管区内犯罪登録数の約4割を占める。

犯罪発生率は、沿海地方における犯罪発生率（人口10万人あたりの犯罪件数）が2,694件で全ロシア平均（1,604）の1.68倍であり、83連邦構成主体中第2位の位置を占めていることから、当地における犯罪発生率は深刻な状況と言える。（1位はザバイカル地方、モスクワ市は45位）

なお、2014年上半期の犯罪登録件数は24,900件と前年比で6.3%減に転じている。

（2）罪種別発生状況

ア 増加傾向にある犯罪

殺人（前年比30%増）、重度傷害（前年比5%増）、銃刀法違反（前年比35%増）、麻薬関連犯罪（前年比23%増）、詐欺（前年比30%増）、贈収賄（前年比38%増）
2014年上半期（前年同期比）汚職事件19%増、武器不法取引21%増。

イ 減少に転じた犯罪

強盗、略取誘拐、騒乱罪
2014年上半期（前年同期比）窃盗19%減

（3）地区別発生状況

ア 沿海地方行政区分

沿海地方における登録犯罪のうち、およそ3分の1がウラジオストク市において発生、増加率は前年比15.5%増となっている。次いでウスリースク市での発生が顕著であった。登録犯罪の約半数は窃盗罪。

沿海地方内における犯罪発生率は1位がナデジュディンスキー地区、2位がカヴァレ
ーロヴォ地区、3位がハサン地区であり、ウラジオストク市は12位（31地区中）。

イ ウラジオストク市内

ウラジオストク市内において犯罪登録数が増加傾向にある地域は、市内ソヴィエツキ
ー地区となっている（市北部に位置し、市中心部からは離れているが鉄道駅、幹線道路、
各種商業施設、娯楽施設等が同地区南部に密集している）。

（4）邦人被害事案

10月6日午後6時頃、ウラジオストク市中心部クラスノゴ・ズナーメニ大通りを歩行
中の邦人男性が男2名（1名は一見ロシア人、もう一人は人種不明）から現金を窃取され
た。

状況は歩道を歩いていた被害男性の前方5メートル先（以下、男A）と1メートル先（以
下、男B）に男らが歩いており、先を歩いていた男Aのバッグから袋が落ちた。男Bがそ
の袋を拾い、男Aに声をかけ教えようとするも男Aは気づく様子がなく、男Bは被害男性
と並んだ状態で袋の中身を確認すると、そこには現金の束が入っていた。現金を手にした
男Bは被害男性と歩きながら、拾った現金を折半しようと持ちかけてきたが、そのとき男
Aが落としたことに気づき前方から戻り被害男性と男Bに各々の財布を見せろと要求して
きた。2人が財布を出すと男Aは財布を手に取り確認し始め、男Bは観念した様子で拾っ
た現金を男Aに差し出すと男Aは男Bを殴り、財布を2人に返しその場から立ち去った。

男Bはもと来た道へ戻って行き、被害男性は目的地の店に着いたところで財布から10
00ルーブルがなくなっていることに気付いた。

（5）邦人以外の外国人が関係する凶悪事案

今四半期中の発生情報なし。

3 テロ・爆弾事件発生状況

今四半期中の発生情報はなし。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

本年上半期に沿海地方内務局が登録した誘拐事件は7件。（典拠：沿海地方統計委員会）

5 日本企業の安全に関わる諸問題

当該期間中は、大規模な賃上げストや商業活動に関連した暴動等、企業の安全に影響を及
ぼす事案の発生情報はない。

以 上